## 東京都市大環境学部准教授

## リジャル・ホム・バハドゥル さん46

横浜市

をしている留学生には、英語 ちに環境学を指導。言葉が理 めたいと思います」。東京都 で説明を加えることもある。 解できず、きょとんとした顔 響いた。准教授として学生た の教室に、滑らかな日本語が 市大環境学部(横浜市都筑区) スの北西に位置するサッレ村 ネパールの首都・カトマン 「皆さん、今日の講義を始

学部建築学科に合格した。 ちして学費をため、大学の工 ーで昇降操作を練習して面接 な病院で見つけたエレベータ 見たこともなかったが、大き さんが、記念写真を送ってく 子さんとの出会い。アルバイ れたことで英語での文通が始 ト先のホテルに宿泊した玲子 に合格。ほかの仕事と掛け持 来日のきっかけは、妻・玲

とを知った。エレベーターは んだ。 業後は京都大の大学院でも学 かれ、「日本の建築は美しく では「なぜ日本なのか」と聞 た。 1992年に来日し、 芝 まり、日本への興味も深まっ て地震に強い」と答えた。卒 浦工大に留学。奨学金の面接

した際、学生の指導法やデー 国の大学に研究員として勤務 2006年から3年近く、英 究をしようと決めたという。 る。意匠にも興味があったが、 環境をテーマに研究してい 才能の限界を感じ、気候と風 土、環境の観点から建築の研 建物の快適性や伝統建築の

切に保管してもらった」と振 行っている間は妻の実家で大 する何冊ものノートは、苦労 して作った私の宝物。英国に

はどうすれば良いかは、 快適さ、燃焼効率を上げるに 「室内の空気汚染の問題や、 タの収集・分析をさらに深く

愛用の観測機器も宝物の一つ 文に仕上げたい」と意気込む。 を分析し、しっかりとした論 ながるテーマ。今後、データ

-ルの生活環境の改善にもつ

ール語、英語、日本語が混在 の汚染などを調べた。「ネパ まきの量や、まきによる空気 農村家庭の囲炉裏で使用する つの地域で集めたデータだ。 00年代初頭にネパールの六 大切にしているのは、20

ネパ の木)と「ピパル」(女の木) と呼ばれる2本の菩提樹だ。 植えられている「バル」(男 で山間部を行き来する旅人の ために、休憩所の目印として 法人名の由来は、ネパール

いを込めた。 の子供たちも人の助けになる 長年にわたり旅人を守ってき た菩提樹のように、ネパール 八間に育ってほしいという願

頃から橋や道路に興味があ り、大学進学を望んだが、経

月約950円しかなく、学費 売の仕事は、給料が日本円で 後に就いたアイスクリーム販 済的に難しかった。高校卒業

には到底及ばなかった。

ーターボーイの募集があるこ

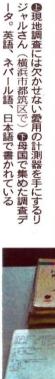
そんな頃、ホテルのエレベ

かけてはだしで通学。幼少の

だ。小学校時代は毎朝2時間 たばかりの山間部の農村地域 の出身。数年前に電気が通っ

母国で収集した調査デ

宅が快適か提案したい」。日 害も甚大だ。「どんな仮設住 多くの人が亡くなり、建物被 ことを忘れたことはない。 本で暮らしながらも、故郷の ネパールでは昨年の地震で



造ったりと支援を続けてい を建設・運営したり、道路を 資金を集め、サッレ村で学校 務める。日本人の協力を得て 金」を設立。現在は理事長を 法人「バル・ピパル奨学基 感し、33年に大阪でNPO 展には教育が一番大事と痛 自身の体験から、母国の発 ■この記事・写真等は読売新聞社の許諾を得て転載しています。 無断で複製等、 ·切の行為を禁止します。

学校法人 五島育英会